

■会場案内図

立教大学新座キャンパス

<懇親会>

こかげ：4号館1階

18:00～19:15

<分科会>

13:30～14:50

N231・N232

：2号館3階

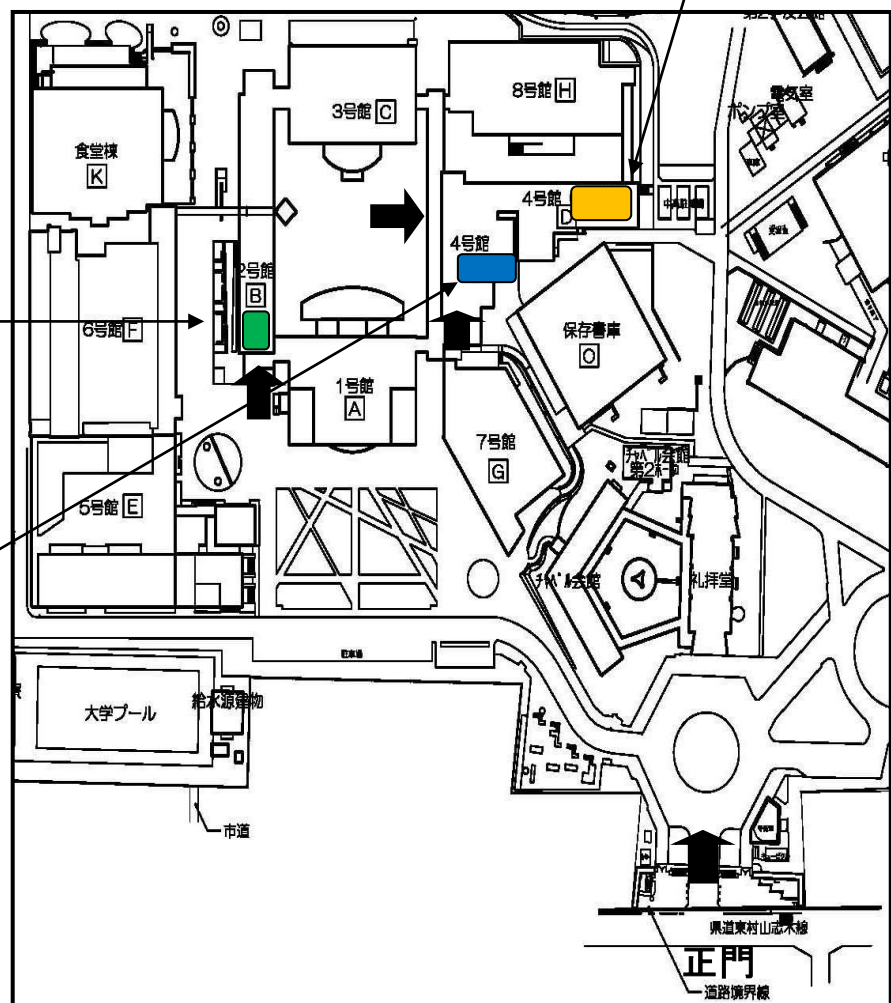
(4号館3階へは、階段なし
でそのままお進みいただけ
ます。)

<講演会/総会・授賞式>

N431：4号館3階

15:05～17:05/

17:05～17:45



JR 武蔵野線 新座駅 ←

→ 東武東上線 志木駅

■運営委員会からのお知らせ

コミュニティ福祉学会“まなびあい”運営委員会では、運営委員として、一緒に活動して下さる方を募集しています。

- ・年1回の“まなびあい”年次大会、例会などに向け、隔月1回程度で運営委員会を行っています。
- ・委員は、学生・卒業生・先生から構成されており、様々な方と知り合い、交流できる機会があります。
- ・やってみよう企画を、実現できる場にもなります。

関心のある方は、事務局(担当：小林)までお気軽にお問い合わせください。

<コミュニティ福祉学会事務局> Tel 048-471-7308(月・火・木 9:00～15:00) Mail: cchs@rikkyo.ac.jp

MEMO

.....

.....

.....

.....



コミュニティ福祉学会“まなびあい” 第8回年次大会

2015.11.14. Sat.

13:30-19:15

プログラム

■ 分科会	13:30～14:50	2号館3階
		N231,N232
■ 講演会	15:05～17:05	4号館3階 N431

戦後70年:NO MORE WAR

—私達の未来と“いのちの尊厳”を考える—

■大会趣意

今大会は上記をテーマに掲げ、戦後70年の今、過去の戦争で起こしたこと、私達の未来に起こりうることを踏まえ、“いのちの尊厳”のために、私達は何ができるのかを皆で考える機会となるような大会を目指しています。

立教大学コミュニティ福祉学研究科での研究活動を経て、現在琉球大学にて教鞭をとられている鈴木良先生をお招きし、平和と福祉の問題についてお話いただきます。

分科会では、自由演題発表として、大会テーマにとらわれず、学生、卒業生、教員の皆さんが日ごろ研究、調査しているテーマの発表を行います。本年度は、英語での発表も予定しております。

懇親会は、学生、卒業生、教員など様々な立場の方が分け隔てなくお互いに語りあい、“まなびあい”が「現場と大学の架け橋」の役割となることを期待しています。コミ福の輪を広げる、きっかけになれば幸いです。

+++++
■プログラム

時間	内容	会場
13:00	受付開始	2号館3階 N231 前
13:30 ～14:50	分科会 自由演題発表7件が各会場にて行われます。各発表の詳細は、右頁の分科会発表概要をご参照ください。	N231 N232
15:05 ～17:05	講演会 「平和と福祉～パレスチナ、障害、沖縄」 ■講師■ 鈴木 良氏（琉球大学法文学部人間科学科准教授） 1975年生まれ。慶應義塾大学総合政策学部卒業。立教大学コミュニティ福祉学研究科博士課程満期退学、2009年立教大学博士号(コミュニティ福祉学)取得。NPO「ラルシュ・デイブレイク」(カナダ)の生活支援員、NGO「地に平和」のパレスチナ・プロジェクト担当員として勤務。京都女子大学家政学部生活福祉学科教員を経て、現在琉球大学法文学部人間科学科教員。著書に『知的障害者の地域移行と地域生活～自己と相互作用秩序の障害学』などがある。コミュニティ福祉学会“まなびあい”会員。 ■講演概要■ 平和運動は福祉運動と統合されて、積極的な意味での平和運動になります。平和とは全ての人の人権の充実を意味するからです。一方、福祉運動のなかでは戦争や平和について語られていない状況があります。日本国内の福祉を充実させても、沖縄や他の開発途上国の犠牲の上にそれが成り立つのであれば、私たちに市民としての責任が生じます。講演では、パレスチナ、障害者、沖縄での私の経験を通して平和と福祉について考えます。	4号館3階 N431
17:05 ～17:45	総会 第1回研究実践奨励賞表彰式	4号館3階 N431
18:00 ～19:15	懇親会 学びあいの場であると同時に、卒業生の同窓会としての要素も兼ね、学生と卒業生、教員の交流の場でもあります。“まなびあい”が、現場と大学の架け橋となることを願っています。 ■参加費■ 卒業生・一般:1,000円 学生・院生:無料 教員:2,000円	4号館1階 カフェテリア こかげ

■分科会発表概要

(各発表15分、質疑応答5分程度を予定しています。)

会場	発表者・所属 (発表形式) 時間	発表タイトル・概要
N231 2号館3階	木下 一雄 コミュニティ福祉学科 2005年卒業 <個人発表> 13:30-13:50	「脱・精神科病院化を推進するためにこれから行っていくべき認知症治療の行方」 日本の精神科入院患者は、1991年をピークに減少したが、精神科病床は、大幅に減少せず、社会的入院患者が未だ多く存在する。精神科病院の9割近くは民間病院であり、現在認知症患者の入院が急激に増加傾向にある。この状況を放置しておけば、昔行った過ちを再び繰り返すことになってしまう。世界の潮流から逆行する精神科病院の実情について検証し、今後の認知症治療のあり方について考察していく。
	岸 侑里夏グループ コミュニティ政策学科空閑ゼミ <団体発表 4名> 13:50-14:10	「持続可能な地域活性化の事例報告—埼玉県小川町での活動から—」 私たちは、埼玉県比企郡小川町の木呂子地区を中心に、実際のフィールドワーク、地元住民との交流や連携を伝じて“持続可能なコミュニティ作り”を目指して活動しています。4年間の小川町での活動の結果、少しずつですが成果が表れてきました。私たちがどのような活動を行い、実際にどのような成果が表れたのか、地域活性化の1つの事例として報告します。
	野村将汰グループ スポーツウエルネス学科沼澤ゼミ <団体発表 10名> 14:10-14:30	「スポーツパフォーマンスを向上させるために～モチベーションビデオを通して考える～」 スポーツでより良いパフォーマンスを発揮するには技術や能力などの肉体的な強さ以外に、実力を発揮する精神的な強さも必要となる。精神的に強化する方法としてスポーツに対するモチベーションを高める方法について今回モチベーションビデオを実際に作成し例に挙げながら発表していく。
	小山 環グループ コミュニティ福祉研究所元職員 服部万里子(服部メディカル研究所、立教大学講師)(2名) 14:30-14:50	「介護自殺・介護心中の防止 —立教 DVD を活用した研修アンケート結果—」 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の一環として、コミュニティ福祉研究所の「自殺予防」に関する研究チームが制作したDVDを活用した研修アンケートの結果を報告する。地域包括支援センター職員やケアマネジャー等を対象とした研修で、働きながら介護する家族や男性介護者への支援について議論された点を整理し、介護自殺や介護心中を防ぐための課題を検討する。
N232 2号館3階	小杉卓見グループ スポーツウエルネス学科 カトリンゼミ I <団体発表 4名・英語> 13:30-13:50	“A Study on the Present State and Problems about Sport Event Sponsorship in Japan” The Olympic Games in 2020 will be held in Tokyo. On TV and other media, news about Olympic sponsors, their role and contribution for the Olympic Games started to appear to a great extent. Due to these topics, we have been wondering about the relation between sponsor companies and sport events, especially in Japan. It seems that sport event sponsoring in Japan is still confronted with difficulties, so not yet achieving global standards. Therefore, this study tries to examine the present state and problems of sport event sponsorship in Japan, and further to evaluate the “Japanese Style” of sport event sponsorship from the viewpoint of sponsorship concepts in general and even those of the Olympic Games.
	渡部憲和グループ スポーツウエルネス学科 カトリンゼミ II <団体発表 4名・英語> 13:50-14:10	“Why Asics “loses” against Nike, Adidas or Puma?” —A Comparison of Sport Brand Companies’ Marketing Strategies” Asics is a representative sport brand of Japan, but compared to the global brands of Nike, Adidas or Puma, the share of sport gear is still low and far behind. Due to these facts and for joining the global market to a greater extent, a change, especially in marketing strategies, seems necessary. Therefore, this study tries to find out where Asics stays behind other brands, and attempts to examine ways of how Asics can be led to greater success worldwide. This study tries to investigate the special marketing strategies of Nike, Adidas, Puma and Asics as sport brands, to find out about similarities as well as differences mainly between their strategies. The purpose is to make suggestions of how Asics can reduce the gap to the global brands Nike, Adidas and Puma.
	中村真博グループ スポーツウエルネス学科 カトリンゼミ III <団体発表 4名・英語> 14:10-14:30	“A Study on Creating Sustainable Values from the Tokyo Olympic Games 2020. – Learning from Past Olympic Games” This study tries to derive hints for creating sustainable values in form of an Olympic legacy for Tokyo 2020 from past Olympic Games. As well-known through media reports, the discussion about the New National Stadium and about questions on financial issues in the organization of the 2020 Games have still been continued, but hardly ever topics on how to take advantage from the Games far beyond 2020 are discussed. We try to investigate organization plans, application documents or final reports from past Olympic Games to find out if and how these Games succeeded or probably failed in creating sustainable values from the biggest sport event worldwide to learn for the Tokyo Games in 2020.